

君のハートよ位置につけ 第62回国民体育大会(秋田わか杉国体)閉幕

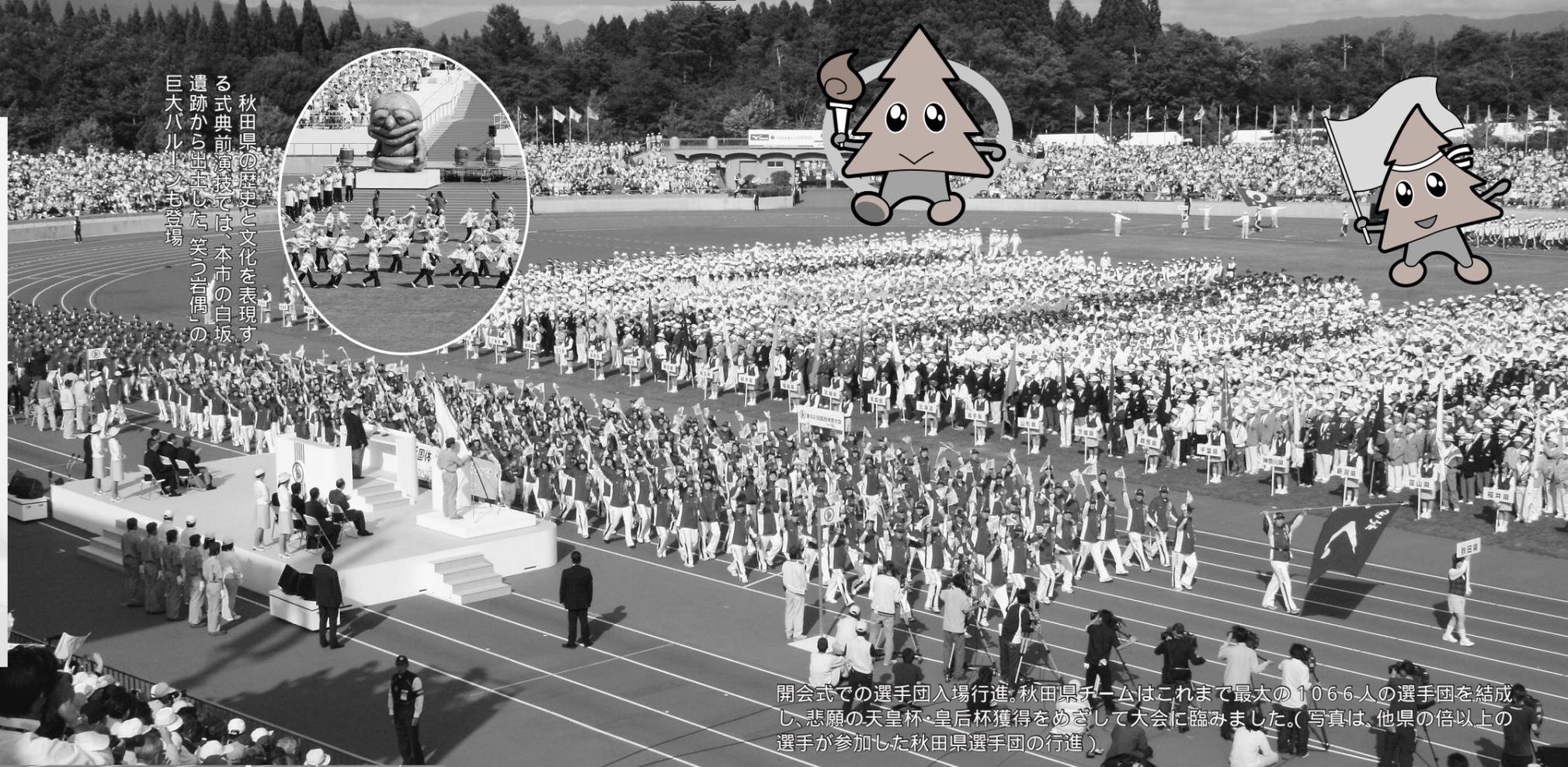
躍進秋田県、天皇杯・皇后杯を獲得

9月29日、秋田市雄和の県営陸上競技場で開かれた総合開会式で

第62回国民体育大会(秋田わか杉国体)本大会は、9月29日から10月9日まで11日間の日程で開かれ、秋田県が初の男女総合優勝(天皇杯獲得)、女子総合優勝(皇后杯獲得)を決めました。本市で行われた競技でも、成年女子9人制バレーボール、山岳縦走、フエンス、エンディングで優勝、準優勝チームが生まれるなど、本県チームは総合成績に大きく貢献しています。ボランティアをはじめ、多くの市民の協力に支えられた各競技の様子をご紹介します(4〜13頁)。



大会期間中灯され、競技を見守り続けた炬火。点火役を務めたのは最終ランナーとなったバスケットボール少年男子の渡部雄敏選手(能代工高3年)と陸上成年女子の茂木智子選手(秋田セロックス)。



開会式での選手団入場行進。秋田県チームはこれまで最大の1066人の選手団を結成し、悲願の天皇杯・皇后杯獲得をめざして大会に臨みました。(写真は、他県の倍以上の選手が参加した秋田県選手団の行進)。



秋田県の歴史と文化を表現する式典前演技では、本市の白坂遺跡から出土した「笑つ石偶」の巨大バルーンも登場



開会式をご覧になる天皇皇后両陛下



県内9地区で採火された炬火。本市で採火された「阿仁マタギの火」は、上小阿仁中学校3年の船木孝平君が持って入場しました(右から2番目)



● 本市開催の各競技でも市民応援団の声を援受け秋田県チームが大活躍

秋田わか杉国体は、県や各競技団体などによる国体誘致活動に合わせ、合併前の平成7年頃から各市町村で開催競技の要望調整が始まり、平成16年7月、正式決定しました。

北秋田市では、新市誕生後の平成17年8月に国体北秋田市実行委員会が設立され、地域団体などの協力を得ながら国体の成功に向けて市民一丸となって取り組んできました。

秋田県では昭和36年の秋田国体以来の開催今大会では、公開競技を含め38競技に47都道府県約2万5千人の選手らが参加し、19の市と町、85会場で熱戦が繰り広げられました。

本市では4競技が行われ、秋田県チームは前半に行われた山岳縦走の縦走で成年男女が優勝、少年男女が準優勝。後半でもバレーボール成年女子9人制、フエンスでは少年男子フルール、成年女子フルールで優勝するなど、市民応援団の声を援受けながら大活躍しました。

特に、北秋田市勢が出場した山岳縦走競技の成年・少年女子、フエンス少年男子の活躍は、市民に感動を与えました。

各競技での本県チームによる活躍の結果、秋田県の成績は前回の秋田国体での2位を上回り悲願の天皇杯獲得を成し遂げました。